

令和5年度 データサイエンス・プログラム 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

公立大学法人福岡県立大学基盤教育センター全学横断型教育小部会

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの授業科目群を履修した学生に対し、取得した単位に応じて「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」「データサイエンス(基礎)学修証明書」「データサイエンス学修証明書」の3種類の学修証明書を交付している。学修証明書は3年次終了時もしくは卒業時に取得できる。学修証明書の交付は令和2年度から開始した。令和2年度終了時での「データサイエンス(基礎)学修証明書」又は「データサイエンス学修証明書」の取得者数は51名であった。令和4年度からデータサイエンスのリテラシーレベルを学修した者に「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付を開始した。令和4年度終了時での3種類の学修証明書のいずれかを取得した学生は155名に大きく増加した。令和5年度終了時でのプログラムの履修率は100%に達している。</p>
学修成果	<p>SD・FD部会において実施している授業アンケートを分析することによって、学修成果を把握している。その結果をもとに、必要に応じて科目担当教員が授業の改善を行っている。</p> <p>令和5年度の授業アンケートにおける「この授業は、授業到達目標が達成できる学習効果の高い授業でしたか」という項目において、データサイエンス共通基礎科目群の平均が約3.6(※)(100点換算で約90点)、データサイエンス専門基礎科目群の平均が約3.5(100点換算で約87.5点)、データサイエンス専門応用科目群の平均が約3.6(100点換算で約90点)であった。以上のことから、学修成果は高いと考えられる。</p> <p>※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で点数化</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>SD・FD部会において実施している授業アンケートを分析することによって、学生の授業内容の理解度を把握している。その結果をもとに、必要に応じて科目担当教員が授業の改善を行っている。</p> <p>令和5年度の授業アンケートにおける「この授業は、総合的に満足できるものでしたか」という項目において、データサイエンス共通基礎科目群の平均が3.6(※)(100点換算で約90点)、データサイエンス専門基礎科目群の平均が3.5(100点換算で約87.5点)、データサイエンス専門応用科目群の平均が3.5(100点換算で約87.5点)であった。以上のことから、学生の授業内容の理解度は高いと考えられる。</p> <p>※「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で点数化</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>SD・FD部会において、受講生に対する授業アンケートを学期の中間と期末で実施しているが、中間アンケートにおいて、受講生から指摘された授業改善点に対して、授業対応プランを提示している。授業内容や授業形式などを改善することで、より多くの学生にとって魅力的なプログラムとなるように努めている。全授業科目の授業対応プランは科目の受講生以外の全学生が閲覧することができる。受講生の感想や意見に対する教員の対応を掲示することで、より多くの学生が本プログラムに興味を持ち、受講を希望するようになることを期待している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和4年度からデータサイエンスのリテラシーレベルを学修した者に「データサイエンス(リテラシー)学修証明書」の交付を開始した。令和4年度終了時での3種類のデータサイエンス・プログラムの学修証明書のいずれかを取得した学生は、令和3年度の48名に対して155名へ大きく増加した。令和5年度から、全学横断型教育を推進するために、本学の教養教育を運営する「基盤教育センター」に「全学横断型教育小部会」を新たに設置し、履修者数、履修率の向上に取り組んでいる。令和5年度終了時では、プログラムの履修率が100%に達した。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>卒業生の就職率は、令和4年度では、公共社会学科96.2%（民間企業・団体等、官公庁、教員、大学院進学等）、社会福祉学科100%（社会福祉施設、病院医療施設、官公庁、教員、大学院進学等）、人間形成学科100%（幼稚園・保育所、民間企業・団体等、官公庁、教員、大学院進学等）、看護学科100%（医療施設、官公庁（保健師）、教員（養護教諭）、大学院進学等）である。</p> <p>進路・生活支援部会において、毎年、卒業生就職先アンケートを実施し、本学の卒業生に対する企業等評価を把握している。</p> <p>令和5年度の卒業生就職先アンケートでは、送付数172に対して57の回答を得た（回収率33.1%）。本学の卒業生が身につけていると感じる能力に関して「そう思う」又は「ややそう思う」と回答を得た割合が、「大学で学んだ専門分野の知識」が69.1%、「大学で学んだ専門分野のスキル」が65.5%「情報を分析する力」が65.5%であった。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>令和5年度から、本教育プログラムの改善に向けて、学外からの意見を広く取り入れるために、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに参画している。基盤教育センター全学横断型教育小委員会において、本コンソーシアムを通して、産業界からの視点を取り入れたり、先進的な取り組みをしている大学を参考にして、教育プログラムの授業や実データを活用した演習等の手法の改善に取り組んでいる。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>社会におけるデータとAIの活用に関する学習の場面では、現実の社会での実例を紹介し、AIがどのように活用されているかを示し、学生の学ぶ楽しさや学ぶことの意義が理解できるように工夫している。さらに、映像資料を活用することで、理解を深めるようにしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>SD・FD部会が全学授業アンケートを、各学期の中間と期末に実施している。</p> <p>このアンケートを通じて、授業方法や授業内容に関する学生からのフィードバックを収集し、特に授業の「分かりやすさ」に着目して、各授業科目の内容や実施方法を見直し、授業の質を維持・向上させる取り組みを行っている。</p>